

# 令和8年度事業計画

## 1 普及啓発事業

### (1) 賛助会員の拡大

がん征圧運動に協力していただく賛助会員(維持会員)の拡大に努める。

### (2) 征圧月間運動

がんに関する正しい知識の普及及びがん検診事業の拡大を図るため、北海道が展開する「北海道がん征圧・がん検診受診促進月間(9・10月)」と連携・協力し、各種事業を実施する。

ア 北海道庁ロビーにおける「がん予防普及パネル展」の開催

イ 報道機関と連携し、新聞・テレビ等メディアを通じてがん征圧月間のPRを実施

ウ がん征圧月間ポスターを市町村へ配布する

### (3) 第56回がん予防道民大会

広く道民に対し、がんに関する正しい知識とがん検診の重要性について普及啓発を行うとともに、がん予防の実践とがん検診事業の進展を図ることを目的として、昭和40年から、がん征圧月間の中心事業として全道各地で開催してきている。

令和8年度は次のとおり開催する。

開催月日	令和8年10月23日(金)
開催場所	旭川市民文化会館(ハイブリッド開催)
主催	北海道・旭川市・(公財)北海道健康づくり財団・(公財)北海道対がん協会

### (4) 啓発セミナー

#### ア がん予防学級

道内各地域の道民を対象に、がんに関する正しい知識の普及を図るため、次によりがん予防学級を開催する。

開催回数	年間4回:札幌、旭川、釧路、帯広 各1回
開催場所	各がん検診センター会議室など

#### イ 第58回北海道家族の健康をまもる講習会

(公財)北海道結核予防会、北海道健康をまもる地域団体連合会、北海道食生活改善推進員協議会との共催により、がん及び生活習慣病に関する講習会を開催する。

開催月日	令和8年7月8日(水)
開催場所	札幌エルプラザ

#### ウ 健康教育・講習会等

市町村・企業・町内会・患者団体等の要望に応じ、がんに関する正しい知識の普及啓発を行うための講師を派遣する。

### (5) 事業年報 2024 の発刊

2024(令和6)年度の普及啓発事業及び検(健)診実績をまとめ発刊する。

(6) その他情報発信

ア 機関誌「しらかば」の発刊

北海道対がん協会の活動内容を掲載した機関紙「しらかば」を発行し、市町村、賛助会員に送付するとともにホームページに掲載する。

イ ホームページの充実

ホームページを情報発信として、新しい情報の提供に努め、協会事業の周知とがんに関する正しい知識の普及を図る。

ウ メディアの活用

新聞・テレビ・ラジオ等メディア及び市町村広報等を通じてがん予防の知識普及に努める。

(7) 普及啓発の推進

ア 地区組織との連携

各種団体・地区組織との連携を密にして、がんに関する正しい知識とがん検診の重要性についての普及啓発並びにがん検診事業の拡大を図る。

イ 企業との連携

がん征圧の趣旨に賛同する企業と連携し、がんに関する正しい知識の普及と検診の拡大を図る。

・北海道コカ・コーラボトリング(株)との協働実施事業「リボンの願い事業」

ウ ボランティア団体への支援

がん征圧を目的とした活動に取り組んでいる団体を支援し、その団体の協力のもと検診の拡大を図る。

エ 健康まつり等への参加

市町村が行なう健康まつり等に協力し参加者へ啓発活動を実施する。

オ パンフレット、リーフレット、ポスター等の作成

パンフレット、リーフレット、ポスター等を作成配布し、がんに関する正しい知識の普及及びがん検診事業の拡大を図る。

(8) 各種がん・生活習慣病対策会議

がん及び生活習慣病検(健)診事業を拡大し受診率の向上をはかるため、次のとおり会議を開催する。

ア がん及び生活習慣病対策推進会議

次年度の事業計画を円滑に推進するため、北海道及び北海道国民健康保険団体連合会と三者共催で、保健所・市町村・事業所関係者を対象に「がん及び生活習慣病対策推進会議」を開催する。

〔開催月日 令和8年9月中旬の予定  
開催場所 国保会館5階大会議室

イ 日本対がん協会 東北・北海道ブロック会議

北海道・東北6支部の事業推進及び運営状況等についての情報交換を行うため、ブロック会議に参加する。

〔開催時期 令和8年11月  
開催地 山形県

ウ 各がん検診センター所在市とのがん及び生活習慣病検(健)診打ち合わせ会議

がん及び生活習慣病検(健)診を、円滑かつ効率的に実施するため、がん検診センターの所在地である札幌市、旭川市、釧路市と打合せ会議を開催し、必要事項を協議する。

(9) 受診率の向上

ア 受診勧奨事業者との業務提携

① Socio Future 株式会社との業務提携

江別市内にコールセンターを設置し、市町村検診の予約受付業務を代行する Socio Future(株)(本社:東京)と業務提携を行い、相互に協力して新たな市町村からの検(健)診受託及び検(健)診受診率の向上を図る。

② 株式会社キャンサーズキャンとの業務提携

市町村毎に検診未受診者の傾向等についてデータ分析し、個々に有効な文書等を発送する業務により、他都府県市町村の受診率向上対策に実績のある(株)キャンサーズキャン(本社:東京)と業務提携を行い、相互に協力して健(検)診受託市町村等の受診率の向上を図る。

イ 未受診者への検診勧奨

未受診者勧奨ハガキや電話、チラシ等を活用し未受診者への働きかけを積極的に進める。

ウ 日曜検診の実施

3検診センターで、日曜検診を実施し、平日に受診できない人の受診拡大を図る。

(10) 各センター検診の充実

ア 各がん検診センター利用のPR

札幌市・旭川市・釧路市内の町内会へ積極的に検診をPRし、受診拡大を図る。

イ 検(健)診の拡大

札幌がん検診センターでは、健康診断において特定保健指導対象者の判定を健診当日に行い、対象者に対し特定保健指導を積極的に行うほか、健康診断後の経過観察を必要とする人を対象としたフォローアップ外来を開設する。また、かねてからニーズが高かった腫瘍マーカー等のオプション検査を充実させ、事業所健診においては、新たに特殊健診を導入し、健診拡大を図る。

ウ 予約業務の拡大

札幌がん検診センターでは、施設検診の予約業務の一部を外部委託し、電話による予約に加えウェブ予約を拡大して、個人・事業所の予約について受診者の利便性を向上し検診拡大を図る。

エ 送迎バス利用の拡大

近隣の市町村を巡回して運行し、住民の受診機会の拡大を図る。

(11) 検診設備(機器)の充実

ア 基幹システム「サミツ」の更新

イ 内視鏡設備更新(旭川センター)

## (12) その他

### ア 北海道がん対策基金

がん患者やその家族を社会全体で支え合うことを目的に設立された「北海道がん対策基金」の事務局として基金の管理・運営を行う。

### イ がん電話相談事業

がんに対する不安・悩み・疑問など関心を抱く人々からの相談に応じるとともに、がんに関する正しい知識の普及に努める。

### ウ 禁煙運動への参加

北海道たばこ対策連絡協議会及び北海道禁煙週間実行委員会に参加し、関連団体と禁煙運動の推進について協議するほか、WHOが提唱する世界禁煙デーを中心とする諸行事に参加する。

## 2 調査研究事業

### (1) 学会研修

日本消化器がん検診学会北海道支部の主催する医師・放射線技師・保健師等の合同学会に参加協力する。また、職員の資質の向上をはかるため、各種学会・研究会に参加する。

### (2) 研究事業

#### ア 「北海道広域でのHPV自己採取検査に関する研究」

(株)ジェネティックラボを共同研究者として、自己採取法によるHPV-DNA検査の有効性の検証を行う。

#### イ 「ヒト胃に感染するピロリ菌以外のヘリコバクター属菌の実態調査」

杏林大学医学部を共同研究者として、ヒト胃に感染するピロリ菌以外のヘリコバクター属菌の感染率、関連疾患、内視鏡像の解明を行う。

#### ウ 「液体生検による消化器がん検診分子マーカーの探索」

旭川医科大学を共同研究者として、液体生検による新たな消化器疾患の検診法確立と分子生物学的マーカーの消化器疾患に有用であることを証明する。

#### エ 「除菌後患者における、ヘリコバクター核酸キットの臨床的有用性に関する臨床研究」

国立病院機構函館医療センターを共同研究者として、除菌治療後どの程度の期間が経過すれば核酸増幅法により除菌治療の成否を正しく判定できるかを明らかにする。

#### オ 「低線量肺がん CT 検診の画像から乳房内の病変を検出するソフトウェアの開発」

乳房の断面画像が取得可能である低線量肺 CT 検診の画像を用いて、乳房内の病変を検出するソフトウェアを開発する。

#### カ 「ピロリ菌以外のヘリコバクター属菌の除菌治療による病態消退効果の検証」

東海大学を共同研究者として、ピロリ菌以外のヘリコバクター属菌の除菌治療による病態消退効果及び薬剤感受性の評価を行う。

#### キ 「大腸内視鏡検査前処置AI判定アプリケーションの臨床使用評価 他施設観察研究」

大腸内視鏡検査を受けるために下剤を服用する被検者の腸管洗浄度をAIアプリで判定し、本アプリケーションの精度と臨床運用での問題点を検証する。

ク 「慢性便秘症患者に対する直腸エコー診断後のエロビキシバット投与における有効性と安全性の検討」

国立病院機構函館医療センターを共同研究者として、直腸エコー診断後のエロビキシバット投与における有効性と安全性を検討する。

ケ 「自己免疫性胃炎の内視鏡的萎縮分類と臨床病期に関する他機関後ろ向き観察研究」

加古川中央市民病院を共同研究者として AIG と診断された症例を集約し、その内視鏡的進行度と AIG に関連する検査所見、合併所見、内視鏡所見との関連を調査する。

コ 「日本人を対象とした、血液を用いる臓器横断的がん早期発見アッセイの性能評価に関する多機関共同観察研究」

国立がん研究センター東病院を共同研究者として、日本人集団における Exact Sciences Corporation の MCED 検査の総合的な感度と特異度を評価する。

サ 「Helicobacter pylori 未感染胃腫瘍における Non Helicobacter pylori Helicobacter 感染症の疫学調査」

大分大学グローバル感染症研究センターを共同研究者として、複数の *H. pylori* 感染診断法で陰性であることが証明された *H. pylori* 未感染の胃腫瘍患者・治療後患者を対象に、NHPH 感染率、NHPH の感染診断法の有用性、NHPH 感染に寄与する因子の解明を行うことを目的にする。

シ 「胃がん内視鏡検診での AI 併用が胃がん検出率を上昇させ、ダブルチェックの負担を軽減できるかの検証」

宮城県対がん協会を共同研究者として、胃がん内視鏡検診に AI 併用の内視鏡診断支援システムが医師によるダブルチェックの代わりになるかを明らかにする。この研究を行うために必要な研究費は、国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）革新的がん医療実用化研究事業の公的研究費で行われる。